

## 横山亜紀子：「藻類の多様性研究とハーバリウム，エキシカータ」 参加記

1997年1月25日朝、見上げると六甲山は淡い雪化粧。神戸にも雪が降ると知ってはいましたが、ちょっとびっくり。このシンポジウムは「瀬戸内海海藻標本集」の刊行を記念して、藻類、特に海藻類の多様性研究と、これらの研究におけるハーバリウム（標本室）・エキシカータ（標本集）の意義をテーマとして、神戸大学六甲キャンパスで開催されたものです。講演会場のホールには、このシンポジウムの主役であるエキシカータが並べられていました。エキシカータ（全6巻）には、目次とともにカラーの標本写真集（各巻2ページ・全12ページ）が付けてありました。標本が色褪せても元の色がわかるし、何より見た目にきれいでとてもすばらしい工夫だと思いました。この写真集はお土産にいただくことが出来ました。

会場には、約90名の参加者、そのうち約半数が藻類学会関係者でした。本シンポジウムの主催者である神戸大学、榎本幸人先生の開会の挨拶のあと、まずは吉田忠生先生（北海道大学）による「藻類の多様性とハーバリウム」と題した講演がありました。藻類に限らず、日本のハーバリウムをとりまく現状は厳しく、十分に機能させるのは非常に困難な状況にあると思います。しかし、陸上植物を扱う学生が交換標本によって国内、海外から標本を取り寄せ、そこからDNAを比較的簡単に抽出するのを見て、私は常々うらやましく思っています。海藻の場合、標本からのDNA抽出は陸上植物ほど容易ではないでしょうが、（吉田先生もおっしゃっていましたが）DNAを抽出できるような標本を（私の希望としては、すでに一部機関ではおこなわれているようにDNA自体も！）保存し、それらを研究者が簡単に利用することができれば、様々な分野の研究がもっと充実してくるのではないだろうか？とご講演を聞きながら感じました。

次に、R.J.King博士（オーストラリア・サウスウェールズ大学）による「マングロープ地帯における大型藻類の研究」と題した講演がありました。生涯、いずれの研究機関に所属することもなく、マングロープと藻類の研究に活動の全てを捧げたE. Post博士の話と、紅藻が汽水域という特殊な環境にどの様に適応しているかの旨の話がありました。また、博士の研究材料の1つである汽水性の紅藻の*Caloglossa*（紅色植物門イグス目）の属名の意味が、「美しい舌」であることを強調しておられたのが印象的でした。英語での講演でしたが、日本人向けにゆっくりしゃべって下さったので、

藻類が専門ではない学生にもよくわかったのではないのでしょうか。

午後は、J.L. Olsen博士（オランダ・グローニンゲン大学）による「分子系統学と個体群遺伝学から見た藻類の多様性」の話から始まりました。今回は、1) 褐藻ウリシグサ属の系統解析からみた、生理特性の進化及びその生物地理学的研究と、2) M13フィンガープリントとRAPDsを用いた褐藻*Postelsia palmaeformis*の遺伝的構造の研究、という2つの最新の研究成果（J.Phycol. in press）を紹介していただきました。彼女の巧みな話術と非常に興味深い内容に、私は夢中になって聞いていました。午後の2番目は、李仁圭博士（韓国・ソウル大学）による「韓国周辺の高藻相の特性について」でした。韓国の高藻フロラの研究は岡村金太郎博士により始まったこと、現在の韓国での藻類研究の紹介や韓国の高藻の生態写真などをたくさんスライドを使って紹介して下さいました。（しかも日本語で！）

最後は榎本先生による瀬戸内海の藻類相とエキシカータ」と題した講演がありました。李先生に負けずたくさんスライドを使って、エキシカータに用いた標本を紹介されました。エキシカータを作るまでのご苦労が伝わってくる講演でした。また、瀬戸内海のアラメの成体は標本台紙に載るほど小さいサイズであるという話など、楽しい話題がたくさんありました。最後になりましたが、このシンポジウムを企画して下さいました神戸大の先生方、楽しい話題満載のご講演して下さいました講演者の方々に心より感謝いたします。

〒980-77仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科



シンポジウムでのひとコマ（大葉英雄，東京水産大撮影）